



隈府小だより

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 隈府小」

隈府小学校
学校だより No9
文責 芹川博文
6月6日(金)

日々の積み重ねの大切さ

～ 5年生の朝の活動の姿から感じられたこと ～

6月になりました。「草との闘い」が本格的に始まりました。草取りは、草との根比べのようです。毎日、あきらめずに草を抜き続けることで、少しずつ、しかし確実に変化していきます。

朝の教室を回った時、5年生の黙々と集中した姿が素敵でした。教室前の廊下で宿題のプリントの答え合わせをする児童と、提出されたプリントを名簿にチェックをする係の児童（右の写真）。

中には苦戦しながら、様々な誘惑と闘いながら、宿題のプリントを仕上げて持ってきた児童もいることでしょう。こちらは一見、変化は見えにくいですが、学力はもちろん、心の強さ、時間の使い方、生活習慣の定着など、様々な力が身につきます。日々の積み重ねの大切さを感じました。

以前、海外（カタールのドーハ）の日本人学校に勤務したことがあります。海外に住む子どもたちが苦勞していたことの一つは、漢字の習得でした。海外では使用する機会の少ない日本語。特に漢字を覚えたり使ったりすることは大変で、「よく日本の子どもは、こんなに沢山の漢字を覚えられるな」と思ったものでした。

日常の積み重ねの中に、小学生のこの時期にこそ育まれる学びと成長があることを感じます。



スポーツテストの姿から感じたこと



昨年度（R6年度）スポーツテストの結果 ※一つの例として昨年度の5年生の記録を紹介します

学年	握力	シャトルラン	50m走	ソフトボール投げ
5年(現6年)男子	16.21 Kg	52.02 回	9.16 秒	20.42 m
県平均	16.70 Kg	51.59 回	9.41 秒	22.14 m
5年(現6年)女子	15.65 Kg	40.55 回	9.63 秒	12.35 m
県平均	16.47 Kg	42.88 回	9.62 秒	14.06 m

先日、スポーツテストを実施しました。子どもたちの一生懸命な姿に感心すると同時に、ふと、「今の子どもたちは、日常の中でボール投げや腹筋の経験があるのかな」、と思いました。

私が小学生の頃は、ゲームやスマホもなく、日々の遊びや生活の中に体力が身につく要素がありました。現在においても、例えば自分で歩いて登下校したり、外遊びをしたりすることでも、相当な体力がつくことでしょう。

先日、ある幼稚園の園長先生が、「子どもにとって一番の大敵は『過保護』。子どもたちは自分で成長したがついています」と、言われた言葉が印象に残りました。発達段階や状況に応じた適度な「不自由な環境」が、「雑草魂」のような強い心と体を育む成長のチャンスとなるのかもしれません。

